

つくしだより



平成29年5月号

「マル障」に関する今後の運動方針

都連会長 眞壁 博美

本紙4月号で、都議会本会議最終日に、マル障請願が全会一致で採択されたと報告しました。この問題の第一関門を突破できたことを先ず皆さんと一緒に喜びたいと思います。

しかし、請願が通った後は、自動的に東京都が制度を作ってくれるわけではありません。「精神障害者にも、身体、知的と同じように重度心身障害者医療費助成制度を適用してください」という請願が通っただけで、何級までの精神障害者が適用になるのかも、全く決まっていないのです。

この運動はこれからが正念場です。
★**会長会議を実施**

都連では、4月7日(金)の午後、東京都障害者福祉会館で、加盟する52家族会の会長を集め、今後の運動方針を確認するための会議を持ちました。42家族会50名の家族が参加しました。

会長挨拶に続き、簡単な自己紹介を行ってから議事に入りました。

副会長の植松から、「マル障」運動についての経過報告と今後の活動についての提案がされました。

★4つの提案について

(1) 平成30年度都予算への対応

一緒に運動を進めてきた「東京マル障の会」での話し合いで、1〜3級までの手帳所持者を対象にしてほしいと要望することを確認しています。3級までの人を対象にすると、約130億の予算規模になります。7月には、平成30年度の概算要求が出される時期なので、それまでに都知事に予算措置を求める要望書を出します。

(2) 団体署名活動の実施

請願署名は個人名で行いましたが、マル障の予算措置を求めるにあたり、「団体署名」を各家族会で集めることを提起しました。各家族会も団体ですし、地域にある他障害者団体や、クリニック、地域活動支援センター等の事業所、医師会など、様々な団体に協力をお願いしてください。

6月末までにつくし会事務所に、署名・押印した団体署名が郵送されるようにしてください。(ファックスやメールでの送付は無効になります)

(3) 生活実態調査の実施

精神障害者の生活実態について、特に、医療についての実態把握がさ

れていないので、東京つくし会として、各単会5名ずつ全体で260名のアンケートを実施することにしました。このアンケートは、4月末で締め切り、5〜6月で集約して報告書としてまとめ、団体署名と一緒に都知事宛に提出します。

(4) 都議会各会派とのヒアリング

都知事に出す要望書と同じ要望書を持って、都議会各政党・会派のヒアリングを積極的にに行います。

★皆さんの質問から

(1) 現在支給されている自立支援医療との関係はどうなるのですか？

自立支援医療(精神科通院医療)は国の制度なので、お金は国が出しています。マル障は、東京都の制度なので、自立支援医療で出さないお金は全額東京都が出します。事務手続きは、各区市町村が担うことになります。

(2) 他府県では、どんな様子ですか？

手帳2級までの実施は、岐阜、山梨、奈良、愛知など、1級までの実施は11県です。

私達の悲願が実現するように、共に頑張りましょう。



メリデン版訪問家族支援の国内普及に向けて、
新たなスタート

都連副会長 松沢 勝

この度、本年4月から、メリデン版訪問家族支援技術の日本普及に取り組んできたみんなねっとから新法人「一般社団法人メリデン・ジャパン・ファミリーワークプロジェクト」(代表者 白石弘巳東洋大教授)へ引き継ぐことになりました。新法人設立に至るプロジェクトリーダーとして一言ご挨拶いたします。

日本でメリデンプロジェクトが正式にスタートしたのは、3年前の2014年3月にメリデンファミリープログラム(英国NHSの家族支援研修センター)のフアデン所長、マンセル副所長、ウツドハム家族コンサルタントの3名の来日を以て始まりました。

メリデン版訪問家族支援の 目指す支援



本人・家族・支援者の
それぞれが持っている
知識や専門的知識を活かす

先遣隊として、1年前の本條理事長他の方の事前折衝がありました。フアデン所長以下のファミリーワークの説明のほか支援を受けた家

族の体験談、就労支援の現場、病院・クリニックの見学を含め、ファミリーワークの全体像を掴んで、家族支援技術の日本への導入計画を立てました。

これ以前にも、佐藤純先生を中心にみんなねっとで導入の方向で検討がなされました。併せて、各地のブロック会議でも講習会を開き、同プロジェクトの理解促進に努めました。その結果が、次の通りです。

- ① 2014年3月…プロジェクトへの関心を喚起するため、みんなねっとフォーラム開催(東京・京都)メリデンから3名を招聘。(2日間で約600名が参加)
- ② 2015年6月…英国での基礎ワークショップ(1週間の研修―すべて英語)へ派遣する計画立案。5名の派遣候補者(専門職)を選抜。5名の内訳は、北海道2名、仙台1名、名古屋2名の方々です。
- ③ 基礎ワークショップ修了者が施行を開始。メリデンのスーパーヴィジョン(教育)を経て、再度英国でのトレーナーズコース(1週間)を受けて頂く。
- ④ その後、3名のトレーナーが誕生し、日本で日本語によるメリデン版訪問家族支援技術研修が出来る状況が整いました。
- ⑤ それと共に、現在文科省の科研費研究事業として、日本の4か所でメリデン版訪問家

族支援技術の試行が主に訪問看護という枠組みで行われています。

この間、東京つくし会より、多額のご寄付を頂き英国での研修費用に充てさせて頂きました。ここで改めてお礼申し上げます。

新しい法人は資金ゼロからスタート致しますが、日本において「本人及び家族まるごと支援」が標準となるまで活動を続けます。

家族会の皆様にも研修を受講し、ピアの立場でのご支援をお願いすると共に、是非新法人の会員になって頂きたいと思っております。

お申込みについては、同封の別紙を参照してください。



英国基礎ワークショップを受講した皆さん
(左から、小松氏・酒井氏・大野氏・長江氏・吉野氏)

江戸川区「かたくりの会」訪問記

平成29年4月16日(日)

都連副会長 川崎洋子

都営地下鉄「船堀」駅において、すぐ目の前の「船堀タワーホール」が会場でした。ちょうど何か催しが行われていて、1階は多くの人で賑わっていました。会場は3階でした。

今回はなんと3組(ご夫婦で参加2組)の新しい方が出席されています。こうなったら、先ずは新しい方のお話を聴くことが何と云っても大切なことです。

辛いことばかりで、何とかしたいと思っつと家族会につながった方がたです。思う存分、思いを吐きだしていただけるか不安でしたが、ありのままにつらいこと、苦しいことが話されました。

参加の家族も同じような道を通ってきたことが共感を呼び、会場が一つになって新しい方がたの苦悩に共鳴しました。

精神障害は見えない障害と言われ、理解が難しいと言われています。家族、兄弟にもわかってもらえないのが現状です。

一番つらいのは本人です。朝起きられない、仕事に就かないなど、本人がだらしないときれて、病気のためにできないことへの理解が十分ではありません。

この病気は多くは思春期に発症します。今まで、元気に将来に夢をもって生きてきたのに、

病気の発症ですべてを絶たれてしまった本人の胸の内をわかりたいと思うのですが、精神疾患の症状は、大きな声を出したり、暴言、時には暴力もあり、難しいものです。

しかし、対応の仕方でのこのような症状はすこしずつ和らぐという研究がなされています。本人に寄り添う支援が必要だと言われています。それは家族では無理なことで、しっかり養成された支援員が必要です。みんなねつとでは、その支援員の養成を行っています。(メリデン版訪問家族支援です)

親ができなくても、第三者の支援を受けて精神障害者が自分らしく、幸せを見つけて生きてくれることが、家族の望みです。

又、家族もたのしいことをいっぱいして、元気になることです。家族の元気は本人の元気につながります。

家族だけががんばらないで、家族会で一緒に悩めば、10人いれば、悩みは10分の1になります。みんなで支え合うことが必要です。



平成29年度都民精神保健啓発講演会

講演会のお知らせ

◆テーマ：「その人らしさを大切にされた訪問看護について考える
～どこまで出来る当事者／家族支援 看護現場からの実践～」

◆講師：原子英樹(はらこひでき)氏

円グループ訪問看護ステーション卵(らん)所長

◆日時：平成29年6月22日(木) 13時開場 13:30~15:30

◆定員384名、予約は不要、入場は無料

◆会場：世田谷区烏山区民会館1階ホール(京王線 千歳烏山駅徒歩1分)

◆主催：東京つくし会 電話：03-3304-1108



都議会傍聴記

都連副会長 植松和光

今まで、都議会で議員の皆さんの声を聴くなんてありませんでした。

今回、マル障（心身障害者医療費助成制度）の精神障害者への対象を求める請願活動を行うことで初めて都議会傍聴を行いました。

皆さんご存知ですか？都議会は常任委員会も本会議も原則として午後1時開始です。

傍聴するためには、開始の1時間前から傍聴券が配布されます。定員になり次第傍聴券の配布は終了です。傍聴券には、住所、氏名を書き、入場の際に警備職員に渡します。その際、手荷物検査が行われます。携帯電話の電源オフを確認されます。

委員会室や本会議場に入ると、警備する職員が傍聴者の動向を注視し、写真を撮っていないか、携帯電話を使用していないかなどを常に監視しています。また、野次や拍手などをすると会場から強制退去させられます。

そんな、状況の中で、私は東京つくし会の皆さんと傍聴してきました。

最初の傍聴は2月17日の厚生委員会、2回目3月2日の本会議一般質問、そして3月30日の本会議最終日でした。この、本会議で、マル障の請願が全会一致で採択されたのです。

講演会のお知らせ

☆5/24(水) 回復力を高める、関わり方の基本
講師:SSTリーダー 高森 信子氏 会場:高円寺障害者交流館
主催:杉並家族会 問合せ:あおば福祉会リブレ ☎03-3392-7946

☆6/3(土)4(日) 日本って本当に幸せな国なの？
主催:こころのバリアフリー研究会
会場:NTT東日本関東病院 本棟4Fカンファレンスルーム/
地階ボヤール 講師:精神科医 夏苺 郁子氏
詳細・申し込み:<http://jsbfm.com/>

☆6/10(土)暴力・暴言への対応 講師:大泉病院社会医療部長
山澤涼子氏 会場:新宿区立障害者福祉センター
主催:新宿フレンズ ☎03-3987-9788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

東京つくし会電話相談室



東京つくし会の理事（家族）が交代でさまざまな相談に応じています。

電話 **03-3304-1334**

毎週水曜日（祝日は休み）
11:00～16:00

※当相談室は、面談による相談はお受けしていません。

また、相談の内容によって、別途お時間をいただくこともあります。

編集後記

「米百俵」

新潟県に長岡という町があります。

この町は戊辰の役で最大の戦闘といわれる北越戦争を戦い抜き、全城下焼け野原になりました。日々の生活に困窮する長岡藩士の窮状を見て、支藩の三根山藩から生活の足しにしてほしいという事で米百俵が

寄進されました。一刻も早くこの米を分配しろと迫る藩士たちに対し、時の大参事小林寅三郎は、米を分配しないで換金し、教育が大事だといって学校を建てました。私の母校です。

山本有三はこの話をもとにして昭和十八年に「米百俵」という戯曲を発表しました。彼は、長岡の話から戦争に負け焦土と化すであろう日本の姿を予見し、この戯曲の中で「教育によって人を育てて、戦争の起きない世の中を作らなければならない。」と訴えました。当然即上演中止になりました。

都連理事 轡田 英夫

